



【開催報告】

日本学術会議公開シンポジウム

「若手研究者とリーダーシップ：研究チームから国際コミュニティまで」

若手アカデミーは、2023年9月22日に広島大学霞キャンパスで、公開シンポジウム「若手研究者とリーダーシップ：研究チームから国際コミュニティまで」をハイブリッド開催した。冒頭、相田美砂子・日本学術会議第三部会員より開会挨拶があり、岩崎渉・若手アカデミー代表から若手アカデミーの活動と開催趣旨が紹介された。続いて、若手アカデミーのメンバー15名が、自立した研究者になるまでの自らの経験について、研究室運営やリーダーシップ、国際コミュニティとの関係構築、ライフイベントとの両立などに焦点を当てながら、成功だけでなく後悔していることなども含めてリレー講演を行なった。最後に新福洋子・若手アカデミー会員より閉会の挨拶が行われた。終了後に行ったアンケートでは、「どう生きてきたか、どう生きるのか、皆さんそれぞれの経験や考え方を共有する機会をつくったことが良かった」、「同じ若手研究者でも、歩むキャリアが多種多様な点が印象に残った」などの感想が寄せられた。

シンポジウム終了後は HIRAKU-Global 主催でワークショップを開催した。HIRAKU-Global は、広島大学、山口大学、徳島大学、愛媛大学が共同運営する研究者育成事業である。HIRAKU-Global の若手研究者等と若手アカデミーメンバーが、共に未来の科学・学術を築いていく立場からリーダーシップ、キャリア形成、研究室運営、学生のモチベーション向上の工夫、海外での研究活動、ライフイベントとの両立などについて意見交換した。

国際的な競争の激化、ポストや研究費をめぐる不安定さなど、若手研究者を取り巻く研究・知識生産の環境が大きく変化する中で、若手研究者の研究環境改善に向けて、今後も若手研究者との意見交換を継続していければと思う。



(報告者：小野悠／豊橋技術科学大学)